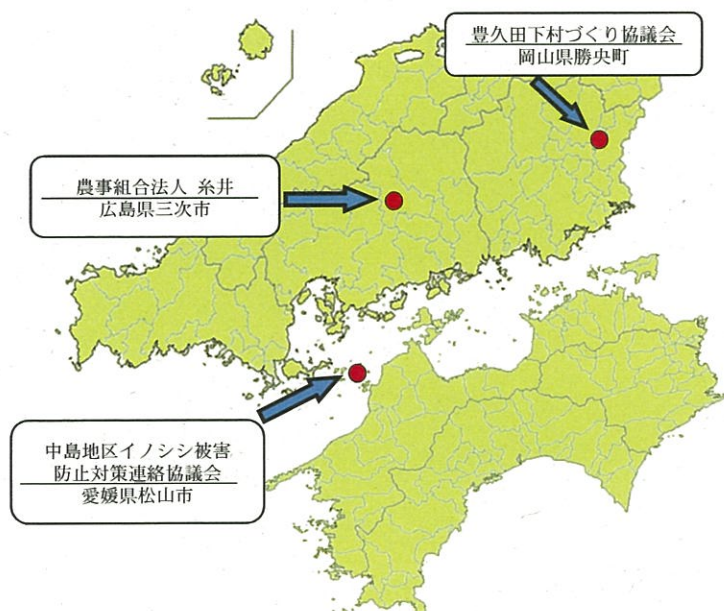


平成27年度 中国四国地域鳥獣被害対策優良活動表彰 受賞者の取組概要



中国四国農政局
農林水産省

豊久田下村づくり協議会

・豊久田下村づくり協議会（岡山県勝央町）
豊久田下地区は、岡山県北東部（勝央町の東部）、中国山地山麓の中山間に位置し、周囲を丘陵林に囲まれた地域である。

【活動の動機・発展過程】

- 野生獣による農産物被害の急増を受け、村づくり協議会が鳥獣被害対策に取り組み、H23～25年度に県の鳥獣害対策集落実践型モデル実証事業等を活用し集落ぐるみで対策に取り組んでいる。

【活動の内容】

- 集落点検による集落マップを作成し、被害の現状把握や対策の問題点を整理。これを活用して緩衝帯の整備、ニホンジカ等の通り道へわな設置等に取り組む。
- 効果的な防護柵の設置技術を取得するため、鳥獣被害対策アドバイザーによる講習会を開催し、電気柵の点検や安全で効果的な設置に活かしつつ、国庫・県事業も活用しH22～27年度に延べ7.4kmの電気柵を設置。
- H23年以降農家7名は新規に狩猟免許を取得。先輩猟師2名が捕獲のコツを伝授。地区内で9名での捕獲体制を整えている（うち5名は町の鳥獣被害対策実施隊員）。

【活動の成果】

- 電気柵等により被害を最小限に食い止めるとともに、H26年度から設置された町の鳥獣被害対策実施隊による捕獲体制の構築により、新米農家狩猟者7名が自ら被害を軽減する機運が高まっている。また、竹やぶの伐採や二番穂を防止する早めの耕起などに取り組み、被害防止に向け集落全体での意識が高まっている。

【今後の活動方向】

- ニホンジカの増加に対応し、地区全体を防護柵で囲む構想を掲げ、順次、集落柵の整備を進めるとともに、引き続き、緩衝帯の整備や鳥獣被害対策実施隊と連携した捕獲の強化に取り組む。



竹やぶ伐採による緩衝帯の整備



鳥獣被害対策アドバイザーによる集落講習会

農事組合法人 糸井

・農事組合法人 糸井（広島県三次市）

糸井地区は、三次市中心部から約10km南東に位置する集落で、米づくりが盛んな地域であり、ほとんどの農地は圃場整備されているものの急傾斜地が多い地域である。

【活動の動機・発展過程】

- 耕作放棄地でイノシシに加え、シカによる農作物被害も増加したことから、H23年に各種事業等も活用し、集落の山側に大規模侵入防止柵を設置したものの被害が続いたため、H25度に鳥獣被害対策モデル集落支援事業（県単独事業）に取り組むことを決定。

【活動の内容】

- H26年度は「モデル集落」活動に取り組み、集落点検実習、3カ所の展示図での実習、追い払い実習、秋～冬の対策・啓発、守れる果樹づくり実習などに取り組んでいる。
- 「モデル集落」活動では女性の参加を中心に幅広い層に参加を呼びかけて活動に取り組み、「守れる畑づくり展示図」での実習等を通じて柵の設置や補強、栽培作物のレイアウト、潜み場所の管理や守れる果樹づくりなどを学習。
- H27年度は前年度の各種活動を通じて習得した知識や技術を活かして被害軽減対策を実践。守れる集落づくりに取り組んでいる。
- 集落ぐるみで実践する鳥獣被害対策の取組については、研修会での事例発表や市内の各種団体等の視察受入れなど様々な機会を通じて被害対策の取組の波及を図っている。

【活動の成果】

- 「モデル集落」活動を通じて、集落みんなで被害対策に取り組む意識が醸成され、鳥獣が侵入し難い心理柵（守れる集落づくり）が形成されつつあり、農作物被害を未然に防ぐことができています。

【今後の活動方向】

- 様々な事情で管理できない潜み場所等はあるが、集落に浸透した対策手法で集落ぐるみの取組を継続し「守れる集落づくり」を実現する。



地区集会所での集落点検結果の研修会



展示図での「守れる畑づくり」の研修会

中島地区イノシシ被害防止対策連絡協議会

・中島地区イノシシ被害防止対策連絡協議会（愛媛県松山市）

中島地区は、松山市の西部、瀬戸内海に浮かぶ中島本島を中心とする6つの有人島で構成されている地域である。

【活動の動機・発展過程】

- 柑橘へのイノシシ被害の拡大を受け、H24年度に県が愛媛大学と連携して中島本島のモデル集落で生息状況調査を実施。結果の報告を受けた住民の間に危機感が高まり、H25年5月に17集落で構成する「中島地区イノシシ被害防止対策連絡協議会」を設立。地区住民主体の被害防止活動がスタートした。
- H25年度からは県単「鳥獣害を受けにくい集落づくり支援事業」や市単でテレメトリー調査などを実施し、防除と捕獲だけでなく本格的な人材育成にも取り組む。

【活動の内容】

- 協議会では、有害捕獲の奨励金を狩猟免許の取得経費やワナ購入費に充て、積極的にワナ師を育成（100人以上）。また、腕の良いワナ師の捕獲獣処分負担を軽減するため、当番制による捕獲獣の役場への搬入や埋設処分等を実施。
- モデル集落での成果は島内全域に拡大し、侵入防止柵の設置距離226km、箱ワナ設置は50ヶ所以上。アニマルセンサー等新技術も導入し効果的な捕獲活動を実践。
- 柵の補修に限らず、隠れ場所や餌場をなくすため住民参加による定期的な環境点検を行い、その結果をもとに様々な環境整備を実践。
- H27年度に先輩狩猟者による捕獲技術向上講座を6回開催。その結果50人の新人ワナ師が実践力を身につけ、ワナ師全体のレベルアップと意欲向上に繋がった。

【活動の成果】

- 捕獲頭数は飛躍的に増加（H26年度：1,125頭）し、農作物被害額、面積ともに半減。
- 初心者への技術指導は他地区からの指導要請も多く、地域貢献としても評価。猟友会任せにしない地域ぐるみの鳥獣害対策は、マスコミや他地区からも注目されており、他地区への波及効果も大きい。

【今後の活動方向】

- 愛媛大学等とも引き続き連携し、捕獲技術の向上に努め、地域ぐるみの鳥獣被害防止活動を促進。狩猟者間のネットワーク化を進め、ジビエ活用も検討する。



集落環境点検結果の取りまとめ



捕獲技術向上講座